インフラ包括管理の導

検討調

査

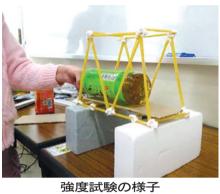
つの小学校を対象に参加 ント」には市内北部の3

道と橋を学べるイベ

エイト日本技術開発を選定

## 道と橋を学べるイベント 県川西市土木部道路整備 課

## 年度先導的官民連携支援事業」に採択された事業の一環として「ニュータ で「道と橋を学べるイベント」を開催した。同市は国土交通省の「令和6 調査において公募型プロポーザル方式の入札でエイト日本技術開発を選定 ウンの課題解決を目指すインフラ包括管理の導入検討調査」を実施。この 回イベントを開催したもの。 兵庫県川西市土木部道路整備課は1月12日、東谷公民館(川西市見野) 市民に社会インフラの維持管理の重要性を伝えるため、



保護者25人) 者を募集し、 中津留課長 当日は、 21組 (子ども25人、 まず、 が参加し 抽選の結 川四市 った橋の簡易模型作り、 イズや、パスタ麺(食用 不適品)と工作用紙を使 さらにはお茶入りペット

一ボトルを利用した強度試

の特徴や道路と橋の重要 れ、その後、関連するク 性についての座学が行わ やその補修の重要性を楽 れ 験が実施された。 しみながら学べる機会と で路面補修の実演が行わ 最後に、公民館敷地内 参加者が道路構造物

なった。

## 次世代を担う子どもたち

同社と共同で

中津留課長

課の中津留幸紀課長は、 川西市土木部道路整備

発された。本市では現 により、人口1万人規模 設建設費用の一部を負担 降、民間開発事業者に施 の戸建住宅地が各地に開 してもらう「川西方式」

在、年間2200件を超 のため、包括管理の導入 可能性について調査を行 な課題となっている。そ 予算と人員で効率的な維 が進んでおり、限られた 持管理を行うことが大き っている」と述べた。 しよう」というMM教育

原体験で土木を楽しんでほし 「川西市は昭和40年代以|ウンのインフラも老朽化 校で、 くりをしっかり考え行動 当として市内全ての小学 を愛して公共交通まちづ 思いがあり、公共交通担

() で学んでほしい」という れ、原体験として楽しん

った」と説明した さらに、 自分たちが作った橋 | 見守る中、全ての橋が無 強度



簡易模型作り

もたちが初めて見る作業 面補修の実演では、子ど 表情を見せた。また、路 れ、参加者全員が喜びの

事に耐えることが示さ

「ふるさと川西市

に取組んできた。「道路

一一一一の特性を反映り、②と③を進めながり、②と③を進めながら成り立ってお |試験で | ちと保護者が心配そうに |えている」と話した。 あればこのような活動を 継続して実施したいと考 散時に子どもたち一人ひ を使ってポットホールの 感慨深い。今後、機会が とう』と言われたことは とりから笑顔で『ありが 補修を楽しそうに行って いた」と振り返り、 に興味津々で、常温合材 解